
とある仮面の封印目録

千藤 光

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある仮面の封印目録

【Nコード】

N3201Z

【作者名】

千藤 光

【あらすじ】

200万人もの学生が日々『能力開発』に勤しんでいる街……学園都市。そんな学園都市に突如として現れたアンデットを封印し、学園都市の住人の笑顔と平和を守るために仮面ライダー^{ブレイド}剣となり、剣崎真一は戦うのであった！そしてクラスメイトの不幸少年…上条当麻のせいで魔術師達との戦いにも巻き込まれてしまうことに！ありそうでなかった禁書とブレイドのクロスノベル。ここに開幕！！

プロローグ 誇り高いバイク

学園都市。その名の通り、大小様々な教育機関と230万人もの住民を抱えている学生の街である。

そんな深夜の学園都市をバイクで駆け抜けている少年が一人いた。

《現場まであと2km！急いで！剣崎君！》

「OK！広瀬先輩！」

ヘルメットの通信システムでやりとりを交わし、バイクのアクセルを全開にして、現場まで少年は急いだ。

少年の名は剣崎真一。彼は人類基盤研究所「BOARD」が開発したライダーシステムで仮面ライダーブレイドへと変身し、日々アンデットと戦っている。

（見えてきた！）

何かの倉庫の前で、ライオンのような二足歩行の生き物……ライオンアンデットが暴れていた。

キキイッ

真一はバイクから降りた。

そして一枚のカードと、銀色の四角いバツクルを取り出した。

カードには背中にランプのスピードのマークが書かれているヘラクレスオオカブトが描かれており、横側にはスピード A C H A

NGEと書かれている。これが、ラウズカード、スペードのA「CHARGE」だ。
そのカードをバツクルのスリットへ差し込み、腹部に装着する。するとバツクルから、カードが出てきて腰に巻きつきベルトとなる。そして真一はゆっくりと右手を斜め左へと移動させ、顔のところまで止める。そして、

「変身!!!」

のかけ声と同時にバツクルについているハンドル…ターンアップハンドルを引く。

turn up

すると電子音と同時に青色でさっきのヘラクレスオオカブトが描かれた青色の壁が現れる。

「ウオオオオオ!!!」

そして真一はその壁をくぐり抜け、仮面ライダーブレイドへと変身した。

「オリヤアアアアアッ!!!」

先手を取ったのはブレイド。ブレイドはライオンアンデットに強烈なパンチを食らわす!

「グハアッ!!!」

ライオンアンデットが少しよろめく。

「ダアッ! ヤアッ! ハッ! オラアッ!!!」

ブレイドは攻撃の手を緩めない。

「ダアッ」

そして跳び蹴りを一発食らわせ、腰からブレイドの武器「醒剣ブレイラウザー」を引き抜き、ブレイラウザーのオーナメントを展開し、カードを一枚抜き取る。そして、スペードの2「SRASH」のラウズカードを取り出し、ブレイラウザーのカードリーダーに読み込ませる。

《S r a s h》

電子音が流れる。

「タアッ！ハアッ！ヤアッ！ウリヤアッ！」

そして切れ味の上がったブレイラウザーでアンデットをメッタ切りにする。

当たりには緑色の血が飛び散る。

そしてブレイドはまたオーナメントを開き、カードを取り出し読み込ませる。

《T A C K R》

電子音が流れ、ブレイドは体を小さくして構えを取る。

「ハアアアアアア」

力を貯めて、

「ダアアアアアアッ！」

アンデットめがけて思いっきり突進する。

「ギャアアアアアッ！」

ドカアアアアアン

アンデットはぶっ飛ばされ爆発し、腹部のバツクルが開く。

しかし、まだ死んではない。

アンデットは不死生命体。ラウズカードに封印しなにかぎり体は残るので、体力が回復しバツクルが閉じるとまた復活してしまうので暴れ出す恐れがある。

ブレイドはブレイラウザーから何の絵柄のないカードを取り出し、アンデットへと投げる。

カードはアンデットに刺さり、アンデットを封印するとブレイドの元へと戻っていく。

スピードの3 BEAT

「広瀬先輩。終わりました。」

仮面の中の通信システムで指示を出していた広瀬に呼びかける。

『OK！もう遅いから直接寮に帰りなさい。』

「わかりました。じゃあ切りますね。」

そう言っただけで通信を切り。バックルのハンドルを引き、変身を解く。

そして真一はうんと伸びをした。

「ふう〜。今日も頑張った〜。」

夏の制服の上にBOARDのマークがついたジャージを着ている少年はバイクに近づき、ヘルメットをかぶる。

「あつ！バイト代の請求してねえ！」

などと独り言を言いながらバイクにまたがる。

今の彼にとってはバイト代などはどうでもいいのだが。

時計はとっくに2時を過ぎていた。

「5時間しか寝れないのか〜。」

そうつぶやきながらアクセルをふかし、自分の寮へと戻っていった。

腕時計の日付は7月19日になっていた。

その日があんな日になるかなんて真一は想像もしていなかった……

T
O
B
E
C
O
N
T
I
N
U
D
E

プロローグ 誇り高いバイト（後書き）

初めての人は初めまして。千藤 光です。

正直才能のない糞みたいな文章なので、わかりづらいと思うのですが、作者が気が短く、せっかちな性格なので、ここまで薄っぺらく読み応えのない話になってしまふのです。

まだまだ下手くそですが、なんとか上達していこうと思っているので、よろしく願います m () () m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3201z/>

とある仮面の封印目録

2011年12月11日02時57分発行